

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 はるにれ		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0114210818&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活が出来るだけ、屋内にならないように、天気の良い日には散歩やドライブなど、外出支援に力を入れて、季節感を肌で感じるように支援をしています。また、犬をホームで飼っている事で、近所の方が遊びに来たり、入居されている方も話しかけたり、おやつをあげたりとされ、心の癒しに繋がっています。食事その季節の旬な素材を使うようにしている事や、出前や外食をする機会をもち、食べる楽しみをより一層持てるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<日常的な外出支援>
本人の希望に添えるように日常の散歩や買い物、ホーム前での外気浴や畑作業などの戸外にでかける支援をしている。また、普段行けない観光地やその日の天候や体調に合わせて摩周湖や開陽台等へのドライブに行くなど柔軟に支援している。
<家族との絆を断ち切らない支援と職員を育てる取り組み>
毎月、健康状態等詳細に報告すると共に家族等が訪問しやすい環境作りや呼びかけで本人との関係を断ち切らないように絆を大切にしている。また、管理者及び職員に毎月、母体の医療法人主催の研修会に参加し、町主催の講演会や研修会、グループホーム連絡協議会の研修会等、内部・外部での研修の機会を設け、ミーティングの際には、研修内容の伝達報告を実施し、職員間の共有が行われている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎月の会議でスタッフ全員で読み上げている。また、休憩室の目の届く所にも理念を掲げ実践できるように努めている。	事業所独自の理念を作り上げており、毎月の会議で職員全員で唱和している。また、ホーム内の見やすい場所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念はホームに掲示している。そして、この理念に向かい、職員で取り組んでいる。	町内会の清掃活動や地域行事に積極的に参加し、事業所の行事にも地域住民に参加して頂いている。また、地域の保育所や小学校とも交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や日々の活動を通じて相談させて頂き、方法の提案や理解を求めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で御家族や町内会から頂いた意見を実践し対応している。	運営推進会議では、防災訓練や避難誘導、地域との協力体制やSOSネットワークについて具体的に話し合っている。	今後は、年6回、実施出来るよう取り組んで戴くことを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	そのように努めている。	町の担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深め、気軽に相談できる関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時以外は拘束をせずに利用者に寄り添いながら対応させて頂いている。但し、防犯の観点から18時～9時までは外の玄関を施錠させて頂いている。	事業所内で勉強会を実施し、身体拘束をしないケアの実践への取り組みが行われている。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人への勉強会の参加を促し、学習出来る機会を作っている。又、入居者様に不自然なあざ等が無いが、全員で注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までも数人、成年後見人制度を利用されており、必要であれば今後も活用し支援しようと考えている。又、同法人への勉強会の参加の促しやホームでの勉強会を開催し、学習出来る機会を作っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の活動の中や、運営推進会議などで直接御家族や入居者から意見や要望を頂いている。遠方の方にはホーム便りや手紙を添えて送付させて頂き様子を伝えるように配慮している。	家族と本人の関係が断ち切れないように毎月、利用料の支払い等で来訪されるように取り組んでいる。その際に、不満や意見があれば気軽に言って貰えるように努めている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面接をおこなったり、会議などで意見が言えるように努めて、反映できることは取り組んでいる。	毎月の職員会議の際に、管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け個別面談も実施し、日々のサービスの質の向上に活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月行なっている。釧根地域での研修には出来るだけ参加出来るように取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町のグループホームとは共同で勉強会も行っており、可能な限り情報交換も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より情報を頂き対応すると共に、入所日やその後数日の内に話す機会を多くし、不安や心配等はないか確認をするようにしている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談、入所日にはできるだけ話したり、相談したりする機会を設けている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の相談員等とも連携を取り、そのように努めている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑作業、レクリエーションなど、本人の好みや出来る事に応じて、可能な限り主体的に生活して頂ける様に支援し、喜怒哀楽を職員と共に共有をしている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が明るく日常生活を過ごして頂く事により、本人と御家族の良好な関係が続くと考えており、そのようにしている。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人や友人が訪ねてこられるようにしている。	本人が築いてきた人間関係や社会関係を断ち切らないように知人や友人が気軽に訪問できるように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が1つの住居に住む為、中には孤立してしまう方もいるが、職員が配慮し全員が楽しく暮らせるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院先などの面会を行い、関係が維持出来るように支援している。又、御家族については退居後も行事の参加や手伝い等、協力して頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのように努めている。	センター方式やMDSのシートを活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、職員間で情報の共有が行われている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は元より、御家族にも御協力して頂き出来るだけ本人の今までの生活を把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、御家族の意見や本人の思い、職員の考え等をまとめ相談できている。だが遠方の御家族との意見交換等は少なく感じられる。	センター方式やMDSのシートを利用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前回外部評価時より記録に対する勉強会を行い、ケアプランに沿った記録の記入は行えている。情報の共有や、日々の観察等も行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や各種手続きも本人や御家族が求めている場合は対応するように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そのように努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関とは常に連携をしており、支援もある。ご家族からの要望があれば専門医等の受診も行っている。	母体の医療法人の医師が月2回、往診されており、受診はすべて事業所で対応している。利用者、家族の要望があれば専門医等の受診にも柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は行えなくなり月に2度の訪問看護はなくなったが、法人の外來主任や病棟の看護部長とは都度連絡を取り、適切な医療が提供できるように努めている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の相談員と共にそのように努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには、制度や法律上限界があると思うが、中でも入居者や御家族の御意向に添える様に努めていきたいと考えている。現在は医療機関の支援を受け対応している。	重度化や終末期のあり方について、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防が開催している救急救命への講習や、ホーム等での勉強会の開催により学習する機会を設けている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	規程の消防避難訓練等は行っているが、夜間を想定した訓練は行っていない為、今後取り組んでいきたいと考えている。	スプリンクラーの設置が完了している。また、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、設備の定期点検も行われている。	今後は、夜間を想定した避難訓練を実施することを期待します。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はなじみの関係が深いほど侵されやすいと考えており、都度配慮するように心掛けている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように周知している。また、記録や個人情報の取り扱いにも十分配慮している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場その場での個々による意見に耳を傾け、指導的にならず方法として提案し、自己決定をして頂く場面を多くする様に心掛けている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の簡素化、短縮化により、共同で行える事の楽しみを増やし、入居者に寄り添いながら希望を引き出し、日々のケアに努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室は希望があれば本人の行きつけのお店にお連れしている。又、服装なども希望があれば御家族と相談し、本人が店に行き自分の目で見て購入できるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況や体調に応じて積極的に調理や片づけをする事で、「食べる」だけの楽しみではなく、他者との関わりやその場その場での楽しみを持って頂けるように努めている。	食事が楽しみなものになるよう、利用者の好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事を取り、片付けをしている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や疾病に合わせた量や水分等を都度主治医と相談し、又、嗜好の確認を行いながら入居者が「食べたい」と思うような物を調理するように努めている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを行っている。時々、口腔内のトラブルが見られる際には、主治医や歯科医師との連携により迅速に対応する様に努めている。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた対応を行うように努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように声かけして支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘に対しての対応を心掛け日々ケアを行うように努めている。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴もっており、入居者の希望に沿った日にちの間隔や時間帯に配慮し入浴を行う様に努めている。	利用者の希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日や時間等が対応可能となっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の自室の環境にも配慮し行うように努めている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が服薬の大切さ、危険性を理解している訳ではないが、少しでも理解が出来るように会議等で個々の服薬に対する知識を深めていきたいと考えている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に対し行ってきた事や、入居者からの希望に対して役割を分担して日常生活を共有するように心掛け対応するように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の全ての訴えや希望に対応できていない訳ではないが、可能な限り本人の意思や希望に沿って行うように努めている。	本人の希望に添えるように日常の散歩や買い物、ホーム前での外気浴や畑作業等、支援を心掛けている。また、普段行けない遠方の観光地やその日の天候や体調に合わせて気軽に近郊の観光地へのドライブに行くなど柔軟に対応している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病状にもよるが、希望や訴えがある入居者に対しては、ご家族とも相談し考えられる危険性等を説明し行うように努めている。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自室に設置したり、携帯電話をお預かりし希望があればお渡ししたりと自由に連絡が取れるように支援している。手紙についても同様。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	病気による混乱が招かないよう、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。	共有空間は利用者の手芸作品や絵画を飾り、日常生活や行事の際の写真等を掲示している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられず、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間と食堂が別々になっており、思い思いに過ごせる様な空間になっている。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の者を持ち込むのを嫌がる方もいるが、必要な方にはその様にお願ひしており、持ち込んで頂いている。	居室の入り口には、職員手作りの表札が掲げられ、居室内は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアをカーテンに変えたり等環境を工夫し自立で出来る事を増やしたりする等、対応するように努めている。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0114210818		
法人名	医療法人 樹恵会		
事業所名	石田病院指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム いこいの樹 しらかば		
所在地	北海道標津郡中標津町西8条北6丁目2番地5		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は「いつも元気に明るく」を大切に利用者と共に、利用者にとって身近な存在でいられるよう、又、利用者が自分らしく過ごせるよう、利用者にとってホームが過ごしやすく気ままな生活を送られるように支援を行い、笑い、不安等を共有して過ごせるように努めています。

活動では、全員参加型のラジオ体操や、個々での内容の違う利用者の意向に合ったレクリエーションなど行って頂いている他、毎日の日常生活の中での役割を職員を中心に利用者や相談士との日の調子に合わせて自発的に参加して頂き、他者との活動を共有し楽しんでいます。

外出支援にも力を入れており、日々の散歩やドライブを中心に、買い物等も要望があればすぐに対応するように心がけ不自由の無いように自由な空間を提供するように努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0114210818&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年3月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎月の会議でスタッフ全員で読み上げている。また、休憩室の目の届く所にも理念を掲げ実践できるように努めている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念はホームに掲示している。そして、この理念に向かい、職員で取り組んでいる。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や日々の活動を通じて相談させて頂き、方法の提案や理解を求めている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で御家族や町内会から頂いた意見を実践し対応している。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	そのように努めている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	緊急時以外は拘束をせずに利用者に寄り添いながら対応させて頂いている。但し、防犯の観点から18時～9時までは外の玄関を施錠させて頂いている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人への勉強会の参加を促し、学習出来る機会を作っている。又、入居者様に不自然なあざ等が無いが、全員で注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までも数人、成年後見人制度を利用されており、必要であれば今後も活用し支援しようと考えている。又、同法人への勉強会の参加の促しやホームでの勉強会を開催し、学習出来る機会を作っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の活動の中や、運営推進会議などで直接御家族や入居者から意見や要望を頂いている。遠方の方にはホーム便りや手紙を添えて送付させて頂き様子を伝えるように配慮している。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と面接をおこなったり、会議などで意見が言えるように努めて、反映できることは取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は毎月行なっている。釧根地域での研修には出来るだけ参加出来るように取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町のグループホームとは共同で勉強会も行っており、可能な限り情報交換も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前より情報を頂き対応すると共に、入所日やその後数日の内に話す機会を多くし、不安や心配等はないか確認をするようにしている。			
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談、入所日にはできるだけ話したり、相談したりする機会を設けている。			
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の相談員等とも連携を取り、そのように努めている。			
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑作業、レクリエーションなど、本人の好みや出来る事に応じて、可能な限り主体的に生活して頂ける様に支援し、喜怒哀楽を職員と共に共有をしている。			
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が明るく日常生活を過ごして頂く事により、本人と御家族の良好な関係が続くと考えており、そのようにしている。			
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限はしておらず、いつでも知人や友人が訪ねてこられるようにしている。			
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人同士が1つの住居に住む為、中には孤立してしまう方もいるが、職員が配慮し全員が楽しく暮らせるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、入院先などの面会を行い、関係が維持出来るように支援している。又、御家族については退居後も行事の参加や手伝い等、協力して頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	そのように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は元より、御家族にも御協力して頂き出来るだけ本人の今までの生活を把握するように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのように努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が中心となり、御家族の意見や本人の思い、職員を考え等をまとめ相談できている。だが遠方の御家族との意見交換等は少なく感じられる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前回外部評価時より記録に対する勉強会を行い、ケアプランに沿った記録の記入は行っている。情報の共有や、日々の観察等も行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の受診や各種手続きも本人や御家族が求めている場合は対応するように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そのように努めている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関とは常に連携をしており、支援もある。ご家族からの要望があれば専門医等の受診も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は行えなくなり月に2度の訪問看護はなくなったが、法人の外來主任や病棟の看護部長とは都度連絡を取り、適切な医療が提供できるように努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人の相談員と共にそのように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行うには、制度や法律上限界があるとは思いますが、その中でも入居者や御家族の御意向に添える様に努めていきたいと考えている。現在は医療機関の支援を受け対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防が開催している救急救命への講習や、ホーム等での勉強会の開催により学習する機会を設けている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	規程の消防避難訓練等は行っているが、夜間を想定した訓練は行っていない為、今後取り組んでいきたいと考えている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保はなじみの関係が深いほど侵されやすいと考えており、都度配慮するように心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場その場での個々による意見に耳を傾け、指導的にならず方法として提案し、自己決定をして頂く場面を多くする様に心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の簡素化、短縮化により、共同で行える事の楽しみを増やし、入居者に寄り添いながら希望を引き出し、日々のケアに努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室は希望があれば本人の行きつけのお店にお連れしている。又、服装なども希望があれば御家族と相談し、本人が店に行き自分の目で見て購入できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況や体調に応じて積極的に調理や片づけをする事で、「食べる」だけの楽しみではなく、他者との関わりやその場その場での楽しみを持って頂けるように努めている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や疾病に合わせた量や水分等を都度主治医と相談し、又、嗜好の確認を行いながら入居者が「食べたい」と思うような物を調理するように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内のケアを行っている。時々、口腔内のトラブルが見られる際には、主治医や歯科医師との連携により迅速に対応する様に努めている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせた対応を行うように努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、運動、水分摂取など便秘に対しての対応を心掛け日々ケアを行うように努めている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間浴も行っており、入居者の希望に沿った日にちの間隔や時間帯に配慮し入浴を行う様に努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の自室の環境にも配慮し行うように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が服薬の大切さ、危険性を理解している訳ではないが、少しでも理解が出来るように会議等で個々の服薬に対する知識を深めていきたいと考えている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴に対し行ってきた事や、入居者からの希望に対して役割を分担して日常生活を共有するように心掛け対応するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>全員の全ての訴えや希望に対応できている訳ではないが、可能な限り本人の意思や希望に沿って行うように努めている。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>病状にもよるが、希望や訴えがある入居者に対しては、ご家族とも相談し考えられる危険性等を説明し行うように努めている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を自室に設置したり、携帯電話をお預かりし希望があればお渡ししたりと自由に連絡が取れるように支援している。手紙についても同様。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>病気による混乱が招かないよう、木目とシンプルな白を使い、単調すぎない自然な空間になっている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>茶の間と食堂が別々になっており、思い思いに過ごせる様な空間になっている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の者を持ち込むのを嫌がる方もいるが、必要な方にはその様をお願いしており、持ち込んで頂いている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレのドアをカーテンに変えたり等環境を工夫し自立で出来る事を増やしたりする等、対応するように努めている。</p>		

目標達成計画

作成日: 平成 23年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	日中を想定した避難訓練は行なっている。夜間を想定した避難訓練は行う予定だったが、まだ、実践が出来ていない。	今年度中に夜間を想定した避難訓練を行う。	1.夜間を想定した避難マニュアルがある為に、再度、全スタッフに周知をしていき、夜間の避難訓練を行うことで、実践力を身に付けていく。 2.一度だけでは、忘れる事や身に付かない為に、定期的実践していく。	1年間
2	47	入居者様の服薬されている薬の内容は、適宜、確認ができるように綴りにしているが、服薬されているすべての薬の副作用などは理解が出来ていない所がある。	定期的に、各々の薬についての勉強会を行い、スタッフ一員が薬に対しての知識が持てるようにする。	1.会議の場で、薬の勉強会を行い、知識を高めていく。	1年間
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。